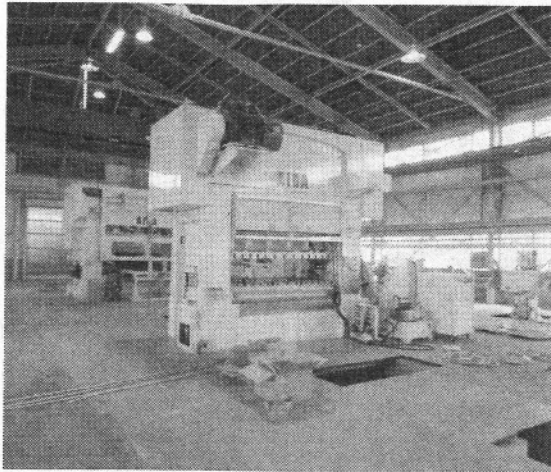


城山産業が金型新工場

電磁鉄芯、大型に対応

車・工作機械向け開拓

【岐阜】城山産業（岐阜県大垣市、竹中幸三社長、0584・89・1010）は、モーター・トランス用電磁鉄芯（コア）向け金型の新工場を建設する。5月に着工し、2013年1月に稼働の予定。また本社工場に新規設備を導入し、コアの月産能力を現在の約20%増の約2250トに引き上げる。総額約11億円を投じ、大型製品に対応できる体制を整備し、顧客のすそ野を広げる。



本社工場に導入したプレス機

城山産業はトランス用アープレスで板金を打ち抜いて自動積層し、コアを生産している。主要顧客である家電メーカーは海外生産シフトを加速し

ている。これを受け、自動車メーカーや工作機械メーカー向け需要を開拓。大型対応、コスト削減などを通じ、国内での生き残りを図る。

コア向け金型の新工場棟は本社隣の第二工場敷地内に置く。延べ床面積は約1300平方メートル、既存金型工場棟の2倍以上にしてより大きな金型の生産体制を整える。また本社のコア工場には既存設備に比べて大型の加圧能力300ト級プレス機2台を導入した。4月に同200ト級を追加する。投資額は計3億3000万円。大型・高速化、多数個取りの体制を整える。

さらに老朽化している本社プレス工場棟の一部を改修する計画。改修方法などを詰めて時期を決める。設備レイアウト変更などにより、効率化に つなげる。